

HIROSHIMA SYMPHONY ORCHESTRA The 369th Subscription Concert in OSAKA



下野×広響《始動》

アルゲリッチが平和音楽大使を受諾。平和の使徒として世界の扉を開く広響が新たに下野竜也を音楽総監督に迎え、24年ぶりに開催する一世一代の大阪公演！

いまや日本を代表する指揮者のひとりとなった下野竜也が、大阪フィルの定期演奏会を朝比奈隆と振り分ける形でデビューしたのは、1999年4月のことだった。それから18年、この春、内外のオーケストラを指揮して着々とキャリアを積み上げてきた下野が、師である秋山和慶からバトンを受け継ぎ、満を持して広島交響楽団（広響）の音楽総監督に就任する。秋山の卓越した手腕によって飛躍的な成長を遂げた広響は、この数年、「Music for Peace～音楽で平和を～」という楽団のキャッチフレーズに掲げて積極果敢な活動を続けてきた。平和の使徒という自らの使命を見出し、マルタ・アルゲリッチをはじめとする世界的な音楽家を迎えて意気上がる広響のモチベーションの高さは、全国的に見ても特筆すべきものがある。

下野を迎えて新時代に入った広響が、24年ぶりの大阪公演で取り上げるのはブルックナーの大作「交響曲第8番」。

朝比奈の十八番をこの地で演奏するのは、まさに一世一代の大勝負だ。これは聴き逃せない。 岩野裕一（音楽ジャーナリスト）

下野 竜也(指揮者)

Tatsuya Shimonon, Conductor



©Naoya Yamaguchi (Studio D)

広島交響楽団音楽総監督。

1969年鹿児島生まれ。2000年東京国際音楽コンクール<指揮>優勝と齋藤秀雄賞受賞、2001年プザンソン国際指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴びる。国内の主要オーケストラに定期的に招かれる一方、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、チェコフィルハーモニー管、シュツットガルト放送響、ロワール管、南西ドイツフィル、シリコンパレー響をはじめとした国際舞台での活躍が目覚ましい。2006年に読売日本交響楽団初代正指揮者に迎えられ、2013年4月から2017年3月まで同団の首席客演指揮者を務める。その間、2011年には広島ウインドオーケストラ音楽監督、2014年4月には京都市交響楽団常任客演指揮者に就任。霧島国際音楽祭、サイトウ・キネン・フェスティバル松本をはじめ、数多くの音楽祭にも参加。近年はオペラの分野でも新国立劇場、日生劇場、二期会をはじめとした注目の公演で指揮を務めている。

公式ホームページ <http://www.tatsuyashimono.com/>

広島交響楽団 Hiroshima Symphony Orchestra

国際平和文化都市“広島”を本拠地とし、中・四国を代表するプロオーケストラ広響は、2004年から音楽監督・常任指揮者を秋山和慶が務め、2017年4月から下野竜也が音楽総監督に就任。

現在は年10回の定期演奏会、呉・福山・廿日市・島根での地域定期やディスカバリー・シリーズをはじめ、依頼公演や学校コンサート、巡回コンサートなど年間約140回を超える演奏活動を行っている。2015年8月、被爆70年として広島とサントリーホール（広響初）で行われた「平和の夕べ」コンサートでマルタ・アルゲリッチと協演し、大成功をおさめた。これまでに「広島市政功労賞」「広島文化賞」「広島ホームテレビ文化賞」「地域文化功労者賞（文部大臣表彰）」「第54回中国文化賞」「第17回県民文化奨励賞」「第5回国際交流奨励賞」「文化対話賞（ユネスコ）」「広島市民賞（2013年度）」を受賞。

公式ホームページ <http://hirokyo.or.jp/>



【広響チャンネルで演奏をお聴きいただけます】→

広島交響楽団 第375回 プレミアム 定期演奏会 大阪公演

「世界への扉 vol.1」ライジング・サン

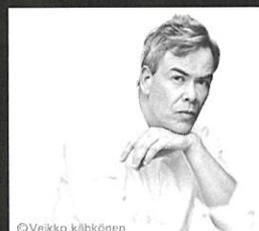
指揮: ハンヌ・リントウ ピアノ: カティア・ブニアティシヴィリ

◆チャイコフスキー: ピアノ協奏曲第1番変ロ短調Op.23 ◆バルトーク: 管弦楽のための協奏曲

2017.11/15(水) ザ・シンフォニーホール

4月14日(金)ご来場の方、ザ・シンフォニーホールロビーにて先行発売致します。*SNS割引不可

入場料(全席指定・税込) ¥5,000 主催: 公益社団法人広島交響楽協会、ザ・シンフォニーホール 運営協力: コジマ・コンサートマネジメント



©Veikko Kähkönen



©Julia Wesely